

2024 年度シラバス

高等学校 2 年



駒沢学園女子中学・高等学校

物理基礎 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	荒井・五十嵐 (特進)
教科書	高校物理基礎 (実教出版)
対象生徒	高校 2 年生

1. 授業の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物理や物理現象への関心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる。また、物理学の基本的な概念・考え方や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 副教材・参考書

- ・物理基礎ドリル (新課程版) 運動と力 (実教出版)
- ・物理基礎ドリル (新課程版) 仕事とエネルギー/熱 (実教出版)
- ・物理基礎ドリル (新課程版) 波/電気 (実教出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業中に配布する授業プリントには、メモを取りながら取り組むこと。
- ・各単元の授業が終了したら、問題集で対応する問題を解いて復習する。分からないところは質問する。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する場合がある。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・問題集から定期的に宿題を課す。
- ・定期試験毎に授業ノート、授業プリント、問題集の提出を求めることがある。提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験または課題を課す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 (80%)、パフォーマンス (20%) により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験 (基本問題)	定期試験 (応用問題)	パフォーマンス (提出物・発表等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、状況に応じて授業の進度の前後や変更をする場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	第1章 物体の運動 1節 運動の表し方 1. 速さとその表し方 2. 等速直線運動 3. 速さと速度・変位 4. 速度の合成と相対速度 5. 加速度 6. 等加速度直線運動
	期末	7. 自由落下運動・鉛直投げ下ろし運動 8. 鉛直投げ上げ運動・水平投射運動 2節 生物とエネルギー 1. 力 2. 力の合成・分解 3. 力のつりあい 4. 作用反作用 5. 慣性の法則 6. 運動の法則 7. 運動方程式 8. 摩擦力 9. 圧力と浮力
二学期	中間	第2章 運動とエネルギー 1節 運動とエネルギー 1. 仕事 2. 仕事の性質と仕事率 3. 運動エネルギー 4. 位置エネルギー 5. 力学的エネルギーの保存の法則 2節 熱とエネルギー 1. 熱と温度
	期末	2. 温度変化に必要な熱量 3. 熱の移動と比熱の測定 4. 熱と仕事 5. 熱機関の効率 第3章 波 1節 波の性質 1. 波とは何か 2. 波の性質 3. 横波と縦波 4. 波の重ねあわせの原理 5. 定在波 6. 波の反射
三学期	学年末	2節 音と振動 1. 音の伝わり方 2. 弦の振動 3. 気柱の振動 第4章 電気 1節 物質と電流 1. 静電気と電子 2. 電流と電気抵抗 3. 抵抗の接続 4. 抵抗率 5. 電力と電力量 2節 磁場と電流 1. 磁場 2. 電磁誘導

単位数	2 単位
担当	天野，明道
教科書	大修館書店『論理国語』
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

言語活動を通して、論理的に書いたり批判的に読んだりする力を育成することを目指す。

- ①基本的な漢字や語彙力を習得し、精読することができるようにする。
- ②自分の意見を持ち、それを他者に伝えることができるようにする。
- ③文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、自分の考えを深めることができるようにする。

2. 副教材・参考書

桐原書店『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』
大修館『国語便覧』
尚文出版『常用漢字ダブルクリア四訂版』

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ①学習活動・課題に積極的に取り組む。
- ②授業内容を毎時間しっかりとまとめる。
- ③前の時間の学習内容の定着度を測るため、適宜確認テストを実施する。
- ④提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ①家庭学習の習慣をつけるために、宿題もしくは次の時間の確認テスト等の課題を課す。
- ②再試は定期試験の得点が 30 点未満のものを対象とする。
- ③教材に応じて家庭学習用の課題を出す。
- ④各学期で予定表に従い、授業内で漢字テストを実施する。
 - ・日常生活で使用する漢字を身につけさせる。
 - ・漢検合格を目指す。
- ⑤1 年次から継続して「読書ノート」を作成する。学期に 1 回、授業内で交換会を開く。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)と提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題	応用問題	パフォーマンス
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※漢字検定取得者には加点する。高 2 では 3 級(+5 点)・準 2 級(+10 点)・2 級(+15 点)
教務部の取得級の表を参照する。

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。

敬組(特進クラス)の定期試験は進学クラスとは異なる

授業計画			
学期	試験	教科書ページ	授業内容(教材)
第一学期	中間	P52～P61 P63	教科書 評論『コミュニティから見た日本』 広井良典 書く：統計資料から分析したことを書く 『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』 『常用漢字ダブルクリア四訂版』
	期末	P31～P40 P41	教科書 評論『余白の美学』 高階秀璽 書く：具体的/抽象的に書く 『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』 『常用漢字ダブルクリア四訂版』
第二学期	中間	P82～90 P91	教科書 評論『人工知能の可能性と罨』 西垣 通 書く：立場を明確にして書く 『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』 『常用漢字ダブルクリア四訂版』
	期末	P137～143 P144～145	教科書 評論『デジタル地図から見える世界』 松岡慧祐 書く：図版を分析して書く 『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』 『常用漢字ダブルクリア四訂版』
第三学期	学年末	P177～187 P201	教科書 評論『世界は、いまー「多文化世界」の構築』 青木 保 書く：調べたことをレポートにまとめる 「グローバル化の意義と問題点」について、複数の資料を引用してレポートを作成する 『新演習 現代文アチーブ 2 四訂版』 『常用漢字ダブルクリア四訂版』

公共（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	壽福 ちなみ
教科書	高等学校 公共(第一学習社)
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

現代の事象を理解するために政治や経済を学び、日々の生活の中でも応用できるような知識と教養を養う。また、授業内においては資料を読み取る力をつけ、現代社会の諸問題、日本と世界のかかわりについて考察していけるようにする。

2. 副教材・参考書
なし

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し，重要語句を調べてくることが望ましい。
- ・日々の課題や授業内におけるグループワークには積極的に取り組むこと。
- ・中間試験は実施しない。

4. 宿題・課題・再試について

- ・予習を兼ねた課題が課されることがある。
- ・定期試験は教科書の内容に準じた内容となる。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試また課題の対象となる。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)，課題・発表・提出物・小テスト(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験・小テスト	定期試験	日々の課題の提出
A	問題を概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業の進行の中で時事問題など，必要に応じて一部をピックアップし，授業内容を変更することがある。

学期		授業内容(教材)
一学期	学期末	第 1 編 第 3 章 公共的な空間における基本的原理 ・ 民主政治の基本的原理 ・ 法の支配 ・ 世界のおもな政治体制 ・ 日本国憲法に生きる基本的原理 第 2 編 第 1 章 法的な主体となる私たち ・ 法と基本的人権 ・ 自由／平等と法／規範 ・ 法をよりよく変えていくために
二学期	学期末	第 2 編 第 1 章 法的な主体となる私たち ・ さまざまな契約と法 ・ 消費者の権利と責任 ・ 裁判所と人権保障 第 2 編 第 2 章 政治的な主体となる私たち ・ 選挙の意義と課題 ・ 国会と立法 ・ 内閣と行政の民主化 ・ 日本の安全保障と防衛
三学期	学期末	第 2 編 第 3 章 経済的な主体となる私たち ・ 労働と産業 ・ 市場経済のしくみ ・ 社会保障と国民福祉

英語コミュニケーションⅡ (2024 年度)

単位数	4 単位
担当	高橋 B・山本 Z・早川 S・濱田 CK
教科書	Landmark Fit English Com.Ⅱ (啓林館)
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・目的や場面、状況等に応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成(5 領域)「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成する。

2. 副教材・参考書

Landmark Fit English Com.Ⅱ サブノート・WORK BOOK (啓林館)
英語 4 技能型テストへのアプローチ①(数研出版)
Harmony New Edition(いっずな書店)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に行う。
- ・リプロダクションやパフォーマンステストでは課内で学習したことを積極的に活用する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・新出単語は各自発音練習なども繰り返し行う。スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する
- ・授業で終わった内容は、サブノート，WORK BOOK，プリント類で復習する。
- ・パフォーマンステストでは正確さだけではなく、積極性も図られるのでしっかり準備取り組みこと。

5. 評価の基準について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画			
学期	試験	授業内容(教材)	
一学期	中間	Lesson 1 A Swedish Girl’s Discoveries in Japan	4 技能テスト Test 1
		Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	
	期末	Describe an animal and explain the feature or an ecological problem it is involved in (more than 30 words)	
		Lesson 4 Seed for the Future	4 技能テスト Test 2 3
二学期	夏休み	Make a speech about your interest or passion. The speech must be in 2minutes.	
		Op L1 Language Change over Time	4 技能テスト Test 4
	中間	Writing Test : Find an example of language change and explain how it will change or how it has changed in more than 50 words)	
		Op L2 Letter from a Battlefield	4 技能テスト Test 5
三学期	期末	Write a letter to someone special to you in more than one paragraph.	
		Lesson 6 Edo: A Sustainable Society	4 技能テスト Test 6
	学年末	Write about what we waste and make a presentation in groups (more than 5 slides/ each slide more than 30words)	
		Lesson 7 Biodiesel Adventure	4 技能テスト Test 7
		Lesson 8 Our Future with AI	
		Write about what we should do to make our community sustainable. It should be in more than one paragraph.	

英語コミュニケーションⅡ (2024 年度)

単位数	4 単位
担当	濱田
教科書	Landmark English Com. Ⅱ (啓林館)
対象生徒	高校 2 年 特進

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、 コミュニケーションを行う目的や場面、 状況などに応じて、 日常的な話題や社会的な話題などについて、 情報や考え、 気持ちなどを、 論理性に注意して書いて伝える 技能を身に付ける。

2. 副教材・参考書

Landmark English Com. 2 サブノート(啓林館)
Landmark English Com. 2 ワークブック(啓林館)
英語 4 技能型テストへのアプローチ①(数研出版)
速読英単語 (Z 会)
Harmony New Edition(いっずな書店)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に行う。単語の小テストを各パートで実施する。満点を目指して学習をすること。
- ・リプロダクションやパフォーマンステストでは課内で学習したことを積極的に活用する。
- ・日頃から教科書に親しみ、読解スピードが上がるよう音読、黙読、シャドウイング、サマリーを行う。

4. 宿題・課題・再試について

- ・新出単語は各自発音練習なども繰り返し行う。スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する
- ・授業で終わった内容は、サブノート、WORK BOOK, プリント類で復習する。
- ・パフォーマンステストでは正確さだけではなく、積極性、内容の適正も図られるのでしっかり準備し取り組むこと。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 60%応用問題 20%), 提出物や単語小テストを含むパフォーマンス評価(20%)により評価をする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画			
学期	試験	授業内容(教材)	
一学期	中間	Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	4 技能テスト Test 1
		Describe an animal and explain the feature or an ecological problem it is involved in (more than 30 words)	
	期末	Lesson 4 Seed for the Future	4 技能テスト Test 2 3
		Make a speech about your interest or passion. The speech must be in 2minutes.	
	夏休み	Lesson 5 Language Change over Time Writing Test : Find an example of language change and explain how it will change or how it has changed in more than 50 words)	4 技能テスト Test 4
二学期	中間	Lesson 7 Letter from a Battlefield	4 技能テスト Test 5
		Write a letter to someone special to you in more than one paragraph.	
	期末	Lesson 8 Edo: A Sustainable Society	4 技能テスト Test 6
		Write about what we waste and make a presentation in groups (more than 5 slides/ each slide more than 30words)	
三学期	学年末	Lesson 9 Biodiesel Adventure Lesson 10 Our Future with AI	4 技能テスト Test 7
		Write about what we should do to make our community sustainable. It should be in more than one paragraph.	
	春休み	Reading 2 Gender Equality Is Your issue, Too Make an Action for Women's History Month	

論理・表現Ⅱ(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	鈴木 B・柳澤 Z・早川 C・丹野 S・Priyanka
教科書	Harmony English Logic and Expression II (いいずな書店)
対象生徒	高校 2 年美～聖

1. 授業の目標

情報や考えなどを論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝えることを目標とする。1 年次の既習事項を基盤に英語の 5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

授業内プリント

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強する。
- ・既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり，書いたりするアウトプット活動が多いので，間違いを恐れずに積極的に参加する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと，反復練習と確認のための課題を出す。また，スピーキングやライティング能力を伸ばす為，発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試，または課題を課する。

5. 評価の基準について

- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組み態度
A	授業内の基本的な演習を理解し発展的な活動につなぐことができる	授業内の Writing/ Share 活動・定期試験を理解し応用力が身についている	発表活動においてトピックを踏まえ，発展的な内容に関して発表し自分の考えを表現できる
B	授業内の基本的な演習を理解している	授業内の Writing/Share 活動・定期試験の基本問題を理解している	発表活動においてトピックを理解し求められる観点を概ね満たし表現することができる
C	授業内の基本的な演習がおおむね理解している	授業内の Writing/Share 活動・定期試験の基本問題をおおむね理解している	発表活動においてトピックを理解し，取り組もうとしている意欲が感じられる

- ・週 2 単位のうち，1 単位は English Speaker との Team Teaching を行う。評価は，それぞれ 50%となる。
- ・Team Teaching の内容は別紙。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜，既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

学期		課	レッスontitle・話題		言語材料	言語のはたらき
1 学期	期 末	2	My Favorite Star	有名人の経歴について説明する	完了形	Description (1)
		4	Talking about Japanese Culture	日本の文化・ものについて話す	受動態	Description (2)
			Speech スピーチをしてみよう！			
2 学期	期 末	7	Foods and Culture	食について考える	動名詞	Cause and Effect
		8	ICT and Universal Design	ICT とバリアフリー社会について考える	分詞	Example (2)
			ディスカッションをしてみよう！			
3 学期	期 末	9	World Peace	世界平和に貢献した人々について知る	関係代名詞	Narrative (2)
		12	If the World Were ...	さまざまな立場に立って考える	仮定法	Viewpoint
			ディベートをしてみよう！			

各クラス時間数

	2B		2Z		2C		2S	
		TT		TT		TT		TT
1 学期期末まで	8	8	9	8	8	8	9	9
1 学期期末後	1	1	1	1	2	1	1	1
2 学期期末まで	11	10	9	12	10	7	9	9
2 学期期末後	1	1	2	1	1	2	2	2
3 学期期末まで	5	6	6	5	7	3	6	6
3 学期期末後	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	27	28	28	29	22	28	28

授業の流れ 教科書付属の補助プリントを活用し、生徒の活動を意識して行う。1 レッソンを 3 時間程度で行う。

- ① Start-Up : Dictation
- ② Interactions: Grammar 導入, Task
- ③ Write: 授業内または宿題で行い, ロイロを利用して提出。English Speaker に簡単な添削をしていただく。
- ④ Share: モデルを利用して自分の考えを話す機会とする。
- ⑤ 小テスト: 授業内で行えない場合は宿題・自主課題としてもよい。

論理・表現Ⅱ(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	濱田 K・Priyanka
教科書	Harmony English Logic and Expression II (いいずな書店)
対象生徒	高校 2 敬

1. 授業の目標

情報や考えなどを論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝えることを目標とする。1 年次の既習事項を基盤に英語の 5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

ワークブック/授業内のプリント

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強する。
- ・既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり，書いたりするアウトプット活動が多いので，間違いを恐れずに積極的に参加する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと，反復練習と確認のための課題を出す。また，スピーキングやライティング能力を伸ばす為，発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試，または課題を課する。

5. 評価の基準について

- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組み態度
A	授業内の基本的な演習を理解し発展的な活動につなぐことができる	授業内の Writing/ Share 活動・定期試験を理解し応用力が身についている	発表活動においてトピックを踏まえ，発展的な内容に関して発表し自分の考えを表現できる
B	授業内の基本的な演習を理解している	授業内の Writing/Share 活動・定期試験の基本問題を理解している	発表活動においてトピックを理解し求められる観点を概ね満たし表現することができる
C	授業内の基本的な演習がおおむね理解している	授業内の Writing/Share 活動・定期試験の基本問題をおおむね理解している	発表活動においてトピックを理解し，取り組もうとしている意欲が感じられる

- ・週 2 単位のうち，1 単位は English Speaker との Team Teaching を行う。評価は，それぞれ 50%となる。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜，既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

学期		課	レッスontitle・話題		言語材料	言語のはたらき
1 学期	期 末	2	My Favorite Star	有名人の経歴について説明する	完了形	Description (1)
		4	Talking about Japanese Culture	日本の文化・ものについて話す	受動態	Description (2)
		10	Volunteering Abroad	世界の国々について知る	関係副詞	Problem Solving
			Speech スピーチをしてみよう！			
2 学期	期 末	7	Foods and Culture	食について考える	動名詞	Cause and Effect
		8	ICT and Universal Design	ICT とバリアフリー社会について考える	分詞	Example (2)
		11	Health and Lifespan	健康と生活について考える	比較	Comparison
			ディスカッションをしてみよう！			
3 学期	期 末	9	World Peace	世界平和に貢献した人々について知る	関係代名詞	Narrative (2)
		12	If the World Were ...	さまざまな立場に立って考える	仮定法	Viewpoint
		13	Culture and Perception	文化と認知の関係について知る	否定・疑問	Emphasis
			ディベートをしてみよう！			

仏 教(2024 年度)

単位数	1 単位
担当	中村 友恵
教科書	駒沢学園の仏教(駒澤学園)
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

駒沢学園の歴史と建学の精神を理解し、仏教主義学校としての理念を学ぶと共に、道徳に替わる教科として宗教に関する一般的な知識と教養を養い、興味・関心を高めることにより、現代社会の諸問題に関する考察力を身に着ける。

〔中期目標〕

学校行事も持つ意義について学び、『修証義』についてどのような内容が記されているのか理解したうえで、現代社会にける問題点と関連させながら、仏教の持つ「生命」や「いのち」という問題について考え、「死生学」的な観点から考えられるようになる。

〔長期目標〕

仏教を基盤とした道徳的な理念を理解し、より良く生きるためにどのように行動すべきか考えられるようになる。あわせて、「いのち」について考え、どのように生きていくことが大切か、各自が自分のこととして考えられるようになる。

2. 副教材・参考書

駒沢学園の仏教(駒澤学園)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業に復習として出される課題や板書事項をまとめたノートをきちんと提出することが大切になります。与えられた課題について、字数にも注意しながら、論理的な文章でまとめる努力をしてください。また、課題やノート提出は期限内に、しっかりと自分の考えが伝わるような文章表現を心掛けてください。

4. 宿題・課題・再試について

仏教の授業で取り上げる社会の諸問題に関する探究授業では、グループワーク・発表を含みます。視聴覚教材を見ての、感想や意見などをロイロノートに提出します。予習・復習課題は、ロイロノートに提出します。坐禅実習も成績に含まれます。真剣に取り組みましょう。

5. 評価の基準について

・単元テストの得点(80%)，提出物と坐禅実習(20%)により評価をする。

評 価 方 法	割 合	評 価 基 準
定期試験	80	定期試験の点数
提 出 物	20	授業ごとのまとめや課題，予習復習内容など

・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題（定期試験等）	応用問題（定期試験等）	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業内容は、実際の授業時間数などにより、順番が前後したりすることもあります。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	1, 「花まつり」について【p 52～p 56】 2, 釈迦の生涯について(1)【p 17～p 27】 ・誕生・四門出遊・出家修行・成道・初転法輪・布教活動・入滅までを学習し、釈迦の悩みについて、現代社会での問題と照らし合わせながら考える。 3, 坐禅実習
二学期	期末	1, 「追善記念日」について【p 57】 2, 「修証義」について ・「修証義」の成立と現代社会での問題との関連性について考える。 ・第1章～第4章から、日常生活と関わり合いのある部分を抜き出し、意味を考えながら、現代社会での問題点と照らし合わせて考える。 3, 「摂心会」と「成道会」について【p 58～p 59】 4, 写経・写仏 5, 坐禅実習
三学期	学年末	1, 「修証義 第5章 行持報恩」について ・意味を考えながら、我々に何を伝えようとしているのかを考える。 2, 「涅槃会」について【p 64～p 65】 3, 「山上忌」について【p 66～p 67】 4, 坐禅実習

体育 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	山崎, 大地
教科書	
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標
- スポーツの必要性を十分に理解させ、生涯にわたって各自の健康を考えて、生活に欠かすことのできない重要な一部として位置づけさせる。
2. 副教材
- アクティブスポーツ(大修館書店)
3. 学習する上での留意点, アドバイス等
- ケガや傷害を起こさないように準備運動と整理運動をしっかりと行う。
- 事故防止に心がけてお互いの安全を確認する習慣をつけさせる。
4. 再試について
- 特になし
5. 評価の基準について
- 実技試験と調べ学習課題の提出(パフォーマンス評価)で評価する。

	実技試験 1	実技試験 2	パフォーマンス(調べ学習課題)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%	30%~80%	30%~80%
C	0%~30%	0%~30%	0%~30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

学期	種目	授業内容	指導内容
第一学期	スポーツテスト 駒女体操 体育祭種目練習 水泳	50m 走, 立幅跳, ハンドボール投げ クロール, 平泳ぎの 25m タイム取り	体力と運動能力の現状を確かめる。(走る, 投げる, 跳ぶ) 25m を完泳させ, かつよりタイムが良くなるように指導する。
	バレーボール 持久走	パス, サーブなど 実技テスト ゲーム 900m タイム(3 周) 1500m タイム(5 周)	パス・サーブ等の基礎技術を身につける。 心肺機能や全身持久力を高める。 毎週タイムを測定する。
第三学期	サッカー	パス, ドリブル, ドリブルシュート 実技テスト ゲーム・審判法	個人が基本技術を身につけて, 連携プレーができるようにさせる。 チームワークを大切に, ルールを覚え理解させる。 心肺機能や全身持久力を高める。

保健 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	芦田
教科書	現代高騰保健体育 (大修館書店)
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標
- 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を具体的かつ行動的に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
2. 副教材・参考書
- プリント
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等
- 単に 1 教科だけでなく関連の教材や積極的な学校生活が送れるようにする。
- 日常生活で健康問題に遭遇した場合に活用できるように自らの心身への興味・関心を促す。
4. 宿題・課題・再試について
- 定期試験の結果が 30 点未満の場合は課題を課す。
5. 評価の基準について
- ・定期試験の得点を 90%，提出物を 10%にして評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を理解することができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他
- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は教科書内の別の単元を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	安全な社会生活 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法 心肺蘇生法の実習 現代社会と健康 16 感染症の予防
二学期	期末	現代社会と健康 17 性感染症・エイズとその予防 生涯を通じる健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康
三学期	期末	健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁，土壌汚染と健康 03 環境と健康にかかわる対策

家庭総合(2024 年度)

単位数	1 単位
担当	川里， 七島， 八木
教科書	家庭総合（実教出版）
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

人が生きていくうえで必要な知識，家庭生活にかかわる基本的な知識を身につける。
消費者の権利と責任について理解し，消費において自主的に行動することの必要性を理解する。
子どもは，親や保育者などの身近な大人との関わりあいのなかで発達していくことを理解する。
時代とともに変化する家族，家庭について学習し，現在の家庭の抱える課題などを理解する。

2. 副教材・参考書

保育実習：「フリースとマイクロファイバーでつくるアニマルクリーナー」製作

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- 1 学期：消費行動に関する課題(問題商法，クレジットカード，キャッシュレスなど)の提出
社会への扉(消費者庁)の活用
DVD視聴「知っておきたいクレジットカードの基本(教育図書)」
「ホントにいいね？その契約(東京都消費生活総合センター)」
「キャッシュレス社会の歩き方(東京都消費生活総合センター)」
- 2 学期：保育環境に関する課題の提出
DVD視聴「生命の誕生 2(教育図書)」
「幼児の生活と家族(教育図書)」
- 3 学期：「フリースとマイクロファイバーでつくるアニマルクリーナー」の提出

4. 宿題・課題・再試について

- 1 学期：消費行動に関する課題
2 学期：保育環境に関する課題
3 学期：「フリースとマイクロファイバーでつくるアニマルクリーナー」作品

5. 評価の基準について

- ・下記により評価する。
1 学期：期末試験 80%，課題 20%
2 学期：期末試験 80%，課題 20%
3 学期：学年末試験 80%，作品 20%
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験	課題	実習・作品
A	消費者問題・保育・家族に関する法律などの基本的な問題は概ね解くことができる。	消費者として，正しい情報や知識を持ち，環境に配慮した商品を選ぶ意思が明確にある。	子どもが遊ぶことを想定して，児童文化財をつくることができる。
B	消費者問題・保育・家族に関する法律などの基本的な問題を解くことができる。	消費者として，正しい情報や知識を持ち，環境に配慮した商品を選ぶ意思がある。	児童文化財を工夫してつくること
C	消費者問題・保育・家族に関する法律などの基本的な事項・知識は理解している。	消費者として，正しい情報や知識に関心を持とうとしている。	児童文化財をつくること
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は、各クラスの授業進捗状況により変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一 学 期	期 末	第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 2 消費生活の現状と課題 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 3 消費者の権利と責任 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。
二 学 期	期 末	第3章 子どもとかかわる 2 子どもの発達 子どものからだの成長のようすを学ぶ。 3 子どもの生活 子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもと関われるようにする。 5 子どものための社会福祉 子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 実習 「フリースとマイクロファイバーでつくるアニマルクリーナー」製作
三 学 期	学 年 末	実習 「フリースとマイクロファイバーでつくるアニマルクリーナー」製作 第2章 自分らしい生き方と家族 3 共に生きる家族 結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 4 家族に関する法律 家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。

数学Ⅱ (2024 年度)

単位数	4 単位
担当	小西，二村，蓑島
教科書	新編数学Ⅱ (数研出版)
対象生徒	高校 2 年 選択 A B

1. 授業の目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学Ⅱ + B (数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・ 事前に教科書に目を通し，例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・ 授業が終わった内容は，Study-Up ノート問題集，宿題プリントで復習する。疑問点は質問し，放置しない。
- ・ 試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・ Study-Up 問題集，宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・ 上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・ 定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・ 定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 30%)，提出物(20%)により評価をする。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・ 授業計画は予定であり，授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	1 章 式と証明 ・ 式と計算(3 次式の展開と因数分解，二項定理，割り算，分数式，恒等式) ・ 等式・不等式の証明(等式の証明，不等式の証明) 2 章 複素数と方程式 ・ 複素数と 2 次方程式の解(解と係数の関係) ・ 高次方程式(剰余の定理，因数定理)
	期末	3 章 図形と方程式 ・ 点と直線(座標，直線の方程式，2 直線の関係) ・ 円(円の方程式，円と直線，2 つの円) ・ 軌跡と領域(軌跡と方程式，不等式の表す領域)
二学期	中間	4 章 三角関数 ・ 三角関数(弧度法，三角関数のグラフ，三角関数を含む方程式・不等式) ・ 加法定理(加法定理，加法定理の応用，三角関数の合成)
	期末	5 章 指数関数・対数関数 ・ 指数関数(指数の拡張，指数関数とそのグラフ) ・ 対数関数(対数とその性質，対数関数とそのグラフ，常用対数)
三学期	学年末	6 章 微分法と積分法 ・ 微分係数と導関数(微分係数，導関数とその計算，接線の方程式) ・ 関数の値の変化(関数の増減と極大・極小，関数の増減。グラフの応用) ・ 積分法(不定積分，定積分，定積分と面積)

数学B (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	二村， 蓑島
教科書	新編数学B (数研出版)
対象生徒	高校 2 年 選択E

1. 授業の目標

数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学Ⅱ＋B(数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し，例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は，Study-Up ノート，宿題プリントで復習する。疑問点は質問し，放置しない。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Studu-Up ノート，宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 30%)，提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり，授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	第 1 章 数列 ・等差数列と等比数列(数列と一般項，等差数列，等差数列の和，等比数列，等比数列の和)
	期末	・いろいろな数列(和の記号 Σ ，階差数列，いろいろな数列の和) ・漸化式と数学的帰納法(漸化式，数学的帰納法)
二学期	中間	第 2 章 統計的な推測 ・確率分布(確率変数と確率分布，確率変数の期待値と分散，確率変数の和と積，二項分布，正規分布)
	期末	・統計的な推測(母集団と標本，標本平均の分布，推定，仮説検定)
三学期	学年末	第 3 章 数学と社会生活 (数学を活用した問題解決，社会の中にある数学，変化をとらえる～移動平均，回帰分析～)

日本史探究 (2024 年度)

教科	科目	学年・クラス	授業時間	担当者
地歴科	日本史探究	高 2 美～敬	週 4 時間	渡邊誠・根本隆一

【到達目標】

日本の社会・文化の特色についての認識を深めることで、歴史的思考力を身につける。
日本の政治・社会の展開や国際的な役割を理解する。
日本がどのような過程を経て現代の姿となったのかを学ぶ。

〔中期目標〕

小テストや課題を活用して基礎学力を身につける。

〔長期目標〕

歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈できるようにする。

【授業の進め方】

- 1, 通史を追いながら、単元ごとの歴史を概観してゆく。
- 2, 授業はプリントを使用し、板書事項を各自が記入する。
- 3, 教科書の本文・資料から内容を読みとり、解釈をする。
- 4, 小単位ごとに一問一答形式の課題を配布する。
- 5, 適宜、定期試験に向けて小テストを実施する。

【授業内容】

学期	授業内容	注意事項
1 学期	●日本文化のはじまり ●農耕の開始 ●ヤマト政権と古墳 ●律令国家の成立 ●律令国家の繁栄 ●律令国家の変質 ●摂関政治 ●国風文化 ●荘園の発達と武士	旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代を経て、我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、文化の特色とその成立の背景について考察させる。 荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる。
2 学期	●院政と平氏の台頭 ●鎌倉幕府の成立と発展 ●蒙古襲来と幕府の衰退 ●鎌倉文化 ●室町幕府の成立 ●下剋上の社会 ●室町文化 ●戦国の動乱	武士の土地支配、東アジアとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる。 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。
3 学期	●織豊政権 ●江戸幕府の成立 ●江戸初期の外交と文化 ●幕政の安定 ●経済の発展 ●元禄文化 ●幕政の改革 ●江戸幕府の衰退 ●化政文化	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、身分制度の形成や儒学の役割に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の生活や文化の特色とその成立の背景について考察させる。

【評価方法】

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	年間 5 回実施
小テスト	8%	1 回 20 点の小テストの平均
宿題	4%	小單元ごとの練習問題の提出
レポート	8%	授業ごとのまとめや資料の解釈

【教科書・教材】

書名	出版社	教科書番号
高校日本史探究	山川出版社	81 山川日探 705
詳説日本史図録	山川出版社	—

【担当者からのアドバイス】

歴史は覚えなければならないことが多く大変です。そして、単語を丸暗記しただけでは意味がありません。物事には必ず「原因」と「結果」があるということを念頭に置き、全体を把握するようにしてゆきましょう。

わからないこと、気になったことはそのままにせず、質問する、調べる、考えるということを習慣づけられるようにしましょう。

世界史探究 (2024 年度)

単位数	4 単位
担当	山本
教科書	詳説世界史 (山川出版社)
対象生徒	高校 2 年 ※選択

1. 授業の目標
- 世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する力と、他地域の文化を理解し協調していく態度を身に付ける。
また、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。
〔中期目標〕 教科書の内容を理解し、史料を見て考察する力を養う。
〔長期目標〕 講義を通して自らの力で歴史を読み解き、その事象が起こった背景を歴史的な視野と思考で考察する力を養う。
2. 副教材・参考書
- ・新詳 世界史図説(浜島書店)
・世界史探究 詳説世界史 スタンダードテスト(山川出版社)
3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- ・積極的な姿勢で授業に臨み、主体的に考えながら学習すること。
・現在起こっている出来事と歴史の因果関係等を考察してみること。
4. 宿題・課題・再試について
- ・学習状況に応じた宿題・課題を随時課す。
・合格点に到達しない場合、再試を行うこともある。
5. 評価の基準について
- ・定期試験の得点(80%)、課題・発表(20%)により評価をする。
・以下の表のように観点別評価をつける。

	宿題・用語問題(定期試験)	課題への取り組み、文章問題 (定期試験)	課題の提出状況
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成
	期末	
二学期	中間	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国
	期末	
三学期	学年末	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄

音楽Ⅱ (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	平田亮介
教科書	高校生の音楽（教育芸術社）
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。
- (2) 音楽に対する感性をより豊かにし、表現の技能を伸長し、創造的に表現する能力を高める。
- (3) 世界の多様な音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

2. 副教材・参考書

リコーダーライブラリー

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ・歌唱や器楽の授業ではクラスメイトと協力して授業を進めることがあるので協調性を
- ・授業で行った基本的な音楽の知識は授業内小テストでこまめな確認を行う。小テストの前にはプリント学習などを配布するので内容理解に努める。
- ・鑑賞などでは自分の言葉で詳しく書くことを大切にする。

4. 宿題・課題・再試について

提出物は基本的にロイロノートへの提出とする。
実技試験や授業内小テストも定期試験と同様に点数が低い場合は再試を行う場合がある。

5. 評価の基準について

- ・実技試験，筆記試験，提出物により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記試験 実技試験(基礎的な技能)	鑑賞授業 実技試験(応用・表現等)	提出物・課題等
A	100%～80%	100%～80%	100%～80%
B	80%～30%	80%～30%	80%～30%
C	30%～0%	30%～0%	30%～0%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり，授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画			
学期	試験	授業内容(教材)	
一学期	中間	歌唱 器楽 鑑賞	日本の歌（夏は来ぬ 日本語の発音） アンサンブル（楽器の音色の重なり カノンの魅力） ブラームス マーラー ハンスロット（作曲家の苦悩）
	期末		
二学期	中間	歌唱 器楽 鑑賞	女声三部合唱（ハーモニーのバランス 歌詞に込められたおもい） リズム（Clapping Quartet No2） ベルリオーズ ストラヴィンスキー ショスタコーヴィチ
	期末	創作 楽典 音程	（ロマン派音楽 原始主義 戦争と音楽） カノンコードを使った創作(Garage Band)
三学期	学年末	歌唱 器楽 鑑賞	イタリア歌曲（言葉の響き 旋律の美しさ Caro mio ben） リコーダー（ホールコンソートの実践） ミュージカル 文学作品と音楽の関り(レ・ミゼラブル)

美術Ⅱ（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	高橋 千草
教科書	美術Ⅱ 光村
対象生徒	高校 2 年 美術選択者

1. 授業の目標
- 美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。

(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う
2. 副教材・参考書
- 特になし
3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。

・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。

・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。

・課題は期限までに完成させ必ず提出する。
4. 宿題・課題について
- ・授業内で完成されない場合は宿題となる。
5. 評価の基準について
- ・各学期の課題(提出物 100%)により 評価をする

・以下の表のように観点別評価をつける

	課題(作品)	課題(作品)	学習状況の把握・作品に対する取り組み方
A	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解をより深めている。 表現方法を創意工夫し続け、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて深く考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を更に練り、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の活動に積極的に取り組もうとしている。
B	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解を深めている。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
C	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。 意図に応じて表現し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想をし、自己の価値観で美術や美術文化に対する見方を感じている。	美術や美術文化に関わり表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり進捗状況により課題の増減が起こる事もある。
休校・リモート授業等で授業内容の変更あり

美術Ⅱ授業計画

学期	授業内容
1 学期	デザイン デッサン 絵画 静物画(油彩)
2 学期	1 学期の続き 絵画 デッサン デザイン 文房具をモチーフにした色面構成
3 学期	絵画 エンボス版画 映像 コマ撮りアニメーション 木工

人物クロッキーを適時行う

書道Ⅱ (2024 年度)

単位数	2
担当	酒井 篤史
教科書	書道Ⅱ(教育図書)
対象生徒	高2 書道選択 33 名

1, 授業の目標

書の表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、書の文化や伝統を理解する。

書道Ⅰに引き続き、臨書力を養う。

2, 副教材・参考書

プライマリーブック

3, 学習する上での留意点

2 時間の時間配分を考え、できるだけ集中して練習できるようにする。

用具の取り扱いに十分注意する。

4, 宿題，課題について

基本的に 4 時間に 1 度，作品を提出する。

5, 評価の基準について

提出作品により基本となる評価を付ける。

提出作品は全体の八割を占め，残りの二割がノート点と授業態度点。

作品の出来があまり良くななくても，コツコツと努力を重ねている者に関しては考慮する。

	パフォーマンス(課題) 80%	パフォーマンス(ノート)10%	パフォーマンス(発表等) 10%
A	高度な筆の技術や高度な書道に関する知識がある	不足なく適切にまとめ、読みやすく復習しやすいノート作りができています。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	筆の技術や書道に関する知識がある。	適切にまとめ、読みやすいノート作りができています。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	筆の技術や書道に関する知識を理解している。	ノート作りができています。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

2024 年度 年間指導計画表

学期	月	時間	教科書ページ	授業内容	指導内容・備考等
一学期	4	4		曹洞宗書道展作品	半紙に 4 字を書く 書写の復讐を兼ねて
	5	4	P.34～P35 P.52～P.53	行書の古典を学ぶ 大陸文化の摂取と天平の美術	行書とは何かを学ぶ 歴史を各自調べてみる
	6	6	P.40～P 45 P.46～P.51	蘭亭序「天朗氣清」 風信帖「風信雲書」	行書作品の鑑賞と臨書 それぞれの特徴をつかむ
	7	4		「風信雲書自天翔臨披之閱之如揭雲霧兼恵止観妙門」	書教展の作品作り(半切作品
		計 18			

二 学 期	8	4	P.24～27	隸書の古典に学ぶ 曹全碑「主張」	隸書の成立・筆遣いを学ぶ
	9	6	P.22～P.23	刻字 好きな字を辞書で調べセラミック ボ	創作活動
	10	4	P.34～40	ードに転記し、削る。 草書の古典に学ぶ	草書の成立・筆遣いを学ぶ
	11	6	P.82～P.99	書譜「神融筆暢」	心の響きを表現する創作活動
	12	4	P.80～P.81	漢字仮名交じりの学習 蓬莱切	
		計 24			
三 学 期	1	6	P.66～79	仮名の書の世界	日本人としての美意識を磨く
	2	2		高野切第 1 種	
	3	2		関戸本古今和歌集	
		計 10		寸松庵色紙	

古典探究（2024 年度）

単位数	4 単位
担当	穂谷野，渡邊，明道
教科書	東京書籍『新編古典探究』
対象生徒	選択ⅡCD 選択者

1. 授業の目標

- ①古典文学に親しみ，古典の楽しさを実感する。
- ②古典文法の基礎，重要古語，漢文の句法を修得する。
- ③古文・漢文を，文法事項を習得しながら，数多く読みこなす。
- ④古文の精読と速読の両方ができる力を身に付ける。

2. 副教材・参考書

尚文出版『基礎古典 大学入学共通テスト対策 新装版』
尚文出版『学ぶぞ古文と漢文』
尚文出版『学ぶぞ古文と漢文 基本練習ノート』
いいずな書店『古典単語 330』
角川書店『源氏物語 ビギナーズ・クラシックス』

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

- ①古文・漢文のリズムをつかめるように繰り返し音読させ，学期に一度音読の試験を行う
- ②家庭学習の習慣化と前回学習内容の定着度を測るため，確認テスト・古文単語テストを行う。
- ③予習を習慣化し，復習しやすいノート作りを目指す。

4. 宿題・課題・再試について

- ①家庭学習の習慣化と前回授業内容の定着度を測るため，確認テスト等を行う。
- ②定期試験で得点の低かった分野，特に文法事項については課題を課す。
- ③各定期試験後に必ずノートを提出する。
- ④古典への興味を喚起するためレポート等の自主学習を課す。
- ⑤速読課題・テキスト宿題を用いて，読解力を高める。
- ⑥古典への興味を喚起するためレポート等の自主学習を課す。
- ⑦週 1 回，授業内で古文単語テストを実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)と提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題	応用問題	パフォーマンス
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり，変更することがある。

授業計画			
学期	試験	教科書ページ	授業内容(教材)
第一 学期	中 間	P12～ P40～	教科書 ・「大江山の歌」 ・「小倉百人一首の世界」 ・「小倉百人一首」より 『学ぶぞ古文と漢文』文法 『基礎古典 大学入学共通テスト対策』 『古文単語 330』
	期 末	P158～ P166～	教科書 ・小話「蛇足」 ・唐詩 『学ぶぞ古文と漢文』文法 『基礎古典 大学入学共通テスト対策』 『古文単語 330』
第二 学期	中 間	P86～ P24～	教科書 ・「ありがたきもの」(枕草子) ・「花は盛りに」(徒然草) 『学ぶぞ古文と漢文』文法 『基礎古典 大学入学共通テスト対策』 『古文単語 330』
	期 末	P232～	教科書 ・「長恨歌」 『学ぶぞ古文と漢文』文法 『基礎古典 大学入学共通テスト対策』 『古文単語 330』
第三 学期	学 年 末	P126～ P129～	教科書 ・「光源氏誕生」 ・「若紫」 『学ぶぞ古文と漢文』文法 『基礎古典 大学入学共通テスト対策』 『古文単語 330』

生物(2024 年度)

単位数	4 単位
担当	山田・倉岡
教科書	生物(実教出版)
対象生徒	高校 2 年 選択Ⅱ(CD)

1. 授業の目標
- 自然の事物・現象に対する関心や探求心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。
2. 副教材・参考書
- アクセスノート生物（実教出版）
3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- 授業後に、その日に学習した内容について、教科書・ノートを見直し、問題集を解くこと。
また、予習時に該当する生物基礎の知識を復習するように心掛ける。
4. 宿題・課題・再試について
- 宿題：授業毎に問題集や課題を宿題として出します。長期休暇にはレポートなどの課題を出します。
再試：定期試験に不合格の場合、再試または課題があります。
5. 評価の基準について
- ・定期試験の得点(80%)，パフォーマンス(20%)により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験(基本問題)	定期試験(応用問題)	パフォーマンス(提出物・発表等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他
- 授業計画は予定であり、状況に応じて授業の進度の前後や変更をする場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	第 1 章 生物の進化 1 節 生命の起源と細胞の進化 3 節 生物の系統と進化 2 節 遺伝子の変化と進化のしくみ
	期末	第 2 章 生命現象と物質 1 節 細胞と分子 3 節 代謝 2 節 生命現象とタンパク質
二学期	中間	第 3 章 遺伝情報の発現と発生 1 節 遺伝情報とその発見 3 節 遺伝子を扱う技術 2 節 発生と遺伝子発現
	期末	第 4 章 生物の環境応答 1 節 動物の反応 3 節 植物の成長と環境応答 2 節 動物の行動
三学期	学年末	第 5 章 生態と環境 1 節 個体群と生物群集 2 節 生態系

化学(2024 年度)

単位数	4 単位
担当	菱山 悟
教科書	化学 vol.1 理論編 vol.2 物質編(東京書籍)
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標

第 1 学年において基礎科目が既に履修済みである。一般入試に対応できる力をつけさせるため、科学的思考や考察の育成のみでなく、計算力など数学的思考や考察の発展にも力を注ぐ。また、実験に対する知識や報告書作成といった内容も扱う。理論化学分野は計算力の定着、有機化学・無機化学の分野に関しては、単なる暗記にとどまらず、反応機構をきちんと理解した上で反応式を正しく書けることを目標とする。

2. 副教材・参考書

新訂版 リポートノート化学③物質の状態／物質の変化と平衡 ④無機物質 ⑤有機化合物

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

理論分野は，計算問題に重点をおいて進めていくので，数学的の力が必要になる。無機・有機化学分野は単純な暗記に頼らず，反応機構を確認しながら学習を進めていく。さらに実験を行い，レポートにまとめることで理解を深める。内容に関してはどの単元においてもこまめに小テストを行い，理解度の確認を行う。

4. 宿題・課題・再試について

適宜プリントや実験レポートの提出がある。これをパフォーマンス評価として成績に反映させる。

5. 評価の基準について

定期試験の得点，小テストや実験レポート等のパフォーマンスにより，以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験(80%)		パフォーマンス(20%)
A	物質に関する概念や原理・法則を理解し，現代の生活を支える化学の役割や人間生活との関わりについて考察できる。	身の回りで起きている自然現象や変化について化学的に説明し，問題点や解決策を示すことができる。	報告書の作成において，考察すべき内容を考え，自分の言葉でまとめることができる。また，自らが考えて情報収集，集計方法などを的確に行うことができ，得られたデータから考察，推測ができる。
B	物質に関する概念や原理・法則を理解し，物質が日常の様々な場面で関わっていることを理解できる。	身の回りで起きている自然現象や変化について化学的に説明できる。	報告書の作成において，与えられた考察を，自分の言葉でまとめることができる。
C	物質に関する概念や原理・法則を理解している。	身の回りで起きている自然現象や変化について興味をもっている。	報告書が提出できている。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※ 定期試験とパフォーマンスの割合は，変更の可能性がある

6. その他 授業計画は予定であり，多少前後する可能性がある。なお 3 編 化学反応の速さと平衡は夏期セミナー等で扱う。

授業計画		
学期	試験	授業内容
一学期	中間	1 編 物質の状態(1～4 章) ・物質の三態と状態変化 ・気体の性質(ボイルシャルルの法則・気体の状態方程式) ・溶液の性質(沸点上昇・凝固点降下，希薄溶液の性質，コロイド) ・結晶の種類と性質，構造(格子)
	期末	2 編 化学反応とエネルギー(1～2 章) ・反応熱と熱化学方程式，ヘスの法則，結合エネルギー，光とエネルギー ・電池と電気分解 ・反応速度，反応速度式，触媒 ・化学平衡，ルシャトリエの原理，電離平衡，塩と化学平衡
二学期	中間	4 編 無機物質(1～4 章) ・周期表と元素 ・水素と希ガス，ハロゲンとその化合物，酸素・硫黄とその化合物，窒素・リンとその化合物，炭素・ケイ素とその化合物 ・アルカリ金属とその化合物，2 族元素とその化合物，1.2 族以外の典型金属元素とその化合物，遷移元素とその化合物，金属イオンの分離と確認
	期末	5 編 有機化合物(1～3 章) ・有機化合物の特徴，分類，命名法 ・炭化水素，元素分析 ・アルコール，エーテル，アルデヒド，ケトン，カルボン酸，エステル，油脂，セッケンの性質
三学期	学年末	5 編 有機化合物(4～5 章)，6 編 高分子化合物(1～3 章) ・芳香族炭化水素，酸素・窒素を含む芳香族化合物の性質，有機化合物の分離 ・有機化合物と人間生活 ・高分子の分類と特徴 ・糖類，アミノ酸，タンパク質，核酸 ・合成繊維，合成樹脂，ゴム ・機能性高分子

検定英語講座(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	丹野，柳澤
教科書	『大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成 コア表現トレーニング』『Interactive 4 Skills①CEFR A2 LEVEL』『Interactive 4 Skills②CEFR B1 LEVEL』（旺文社）
対象生徒	高校 2 年 選択 F

1. 授業の目標

2021 年度以降，「大学入試共通テスト」ではリーディング 100 点＋リスニング 100 点と変更，リーディングの文量は増え，さまざまなタイプの文章からの確に情報を読み取るという能力が問われるようになった。共通テストでの導入は見送られているが，英語民間試験を利用する大学自体は《推薦・A0 入試》《一般入試》共に増えている。また 2024 年度からは英検 2 級，準 2 級，3 級とも出題内容が変化し，4 技能を問う問題が増えてきている。

一年次から取り組んできた GTEC や実用英語検定などの外部英語試験に対応できるよう，当講座では，アウトプットを中心とした演習を通して 4 技能，特にライティングやスピーキングを強化する。教科書は外部試験で頻出するテーマ，スタイルに特化したもので，少しずつ試験のスタイルに慣れさせる。また海外の英語学習サイトの教材を活用し，最新ニュースを題材に，リスニングやリーディングの強化を目指す。

2. 副教材・参考書

『大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング・別冊まとめノート』（旺文社）
『大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング』付属 CD
オリジナルプリント

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等

予習は必要ない。その時間に集中して問題を解く。ロイロノートなどの学習アプリで問題演習の解説を行ったり，動画作成をして提出させたりするので，タブレットを毎時持参すること。
コア表現トレーニングで扱う文を繰り返し音読し，自由自在に使える道具となるまで復習を十分に行うこと。

4. 宿題・課題・再試について

授業で扱った素材について復習を行い，内容把握の確認をすることがある。
授業内にライティングテストを随時実施する。既習文法事項の定着を確認し，評価する。

5. 評価の基準について

・定期試験：定期試験期間または試験期間直前の授業内で，筆記試験での期末試験を行う。
評 価：定期試験[期末 x0.8]の点数に平常点(パフォーマンス点 10 点，提出物・タスクワーク 10 点)を加えて全体の平均点を算出し，教務内規(平均点変動型一覧表)の表に沿って 10 段階で評価する。
学期毎にパフォーマンステストを行い，基準を設けて評価する。

観点別評価

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・タスクワーク等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

パフォーマンス評価内訳

	パフォーマンステスト(10 点)	提出物・タスクワーク (10 点)
1 学期	英語で自己紹介，友人と日常会話	コアトレ /Interactive 4skills
2 学期	英語でニュース動画作成	コアトレ /Interactive 4skills
3 学期	スピーキング・ライティング	コアトレ /Interactive 4skills

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	● 「大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング(pp. 5-34) Lesson 1-15 イラスト描写問題, 自分のことを述べる問題 ● 『Interactive 4 Skills① CEFR A2 LEVEL』 L1—L4 日常会話/ とある人物のできごと/E メール・電話/ 掲示・広告・アナウンス ● 英語で自己紹介ビデオ作り ● ペアで英会話ビデオ作り ● 英検 2 次スピーキング試験対策 ● ライティング演習 ● Breaking News English サイトの教材
二学期	期末	● 「大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング(pp. 35-74) Lesson16-35 自分のことを述べる問題/質問・応答問題/客観的な意見を述べる問題 ● 『Interactive 4 Skills ① CEFR A2 LEVEL』 L5—L8 物語/社会問題/ 環境・自然・生物 / 教育 / 化学・テクノロジー ● 英検 2 次スピーキング試験対策, 英語ニュース動画作成 ● ライティング演習 ● Breaking News English サイトの教材
三学期	学年末	● 「大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング」 pp. 75-84 Lesson 36-50 客観的な意見を述べる問題 ● 『Interactive 4 Skills ① CEFR A2 LEVEL』 L9 ● 『Interactive 4 Skills ② CEFR B1 LEVEL』 L1-3 写真・グラフ /E メール(ビジネスレター)・電話 / 物語 ● ライティング演習, スピーキングテスト ● Breaking News English サイトの教材

単位数	2 単位
担当	七島 高橋 平田 鈴木綾
教科書	なし
対象生徒	高校 2 年 選択(E)

1. 授業の目標
- 保育士・幼稚園教諭など、将来、子どもと接する職業を目指す生徒を対象とする。
オリジナル絵本やエプロンシアターなどの製作を行う。
作品の実演を通じて子どもを楽しませるだけでなく子どもの積極性や観察力を高めることができる。
豊かな表現力を習得する。
2. 副教材・参考書
- 各学期の課題に応じたプリント教材
3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- 各学期において、授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
 - オリジナル作品を作成する際は、既成の作品の模倣ではなく、自分の個性を出す工夫をする。
 - 駒沢女子短期大学保育科の出前授業
4. 宿題・課題・再試について
- 各学期のまとめノート・作品・発表の点数をパフォーマンス評価の対象とするため、必ず提出期限までに提出する。
 - 必要に応じてプリントを配布する場合がある。
5. 評価の基準について
- 各学期の課題について、パフォーマンス評価(100%)として評価をする。
 - 状況によって内容を変更する場合がある。
 - 1 学期：①ノート 10%・②絵本読み聞かせ 20%・③オリジナル絵本製作 70%
 - 2 学期：①ノート 10%・エプロンシアター(②作品 30%・③台本 20%・④発表 40%)
 - 3 学期：①ノート 20%・②お面製作 20%・③お遊戯(指導案・発表)60%
 - 以下の表のように観点別評価をつける。

	ノート・課題	発表・課題	作品
A	自分の将来やキャリアプランを描きながら、子どもと関わることについて積極的に記録することができる。	子どもの発達段階を想定して、課題製作や発表を積極的に考え取り組むことができる。	自分で作り出す作品のものづくりの楽しさを体感しながら、製作活動に意欲的に取り組んでいる。
B	自分の将来やキャリアプランを描きながら、子どもと関わることについて記録することができる。	子どもの発達段階を想定して、課題製作や発表を積極的に取り組むことができる。	作品を完成させる達成感を味わいながら、製作活動に取り組んでいる。
C	自分の将来を描きながら、子どもと関わることについて記録することができる。	子どもの発達段階を想定して、課題製作や発表をできる。	作品の完成に向けて、製作活動に取り組んでいる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は、各クラスの授業進捗状況により変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	なし	ガイダンス 子どもを取り巻く問題 ・保育園と幼稚園の違い、ニュース記事などの資料から子どもを取り巻く問題をまとめ、意見をまとめる。 絵本の読み聞かせ(実習) 「好きな絵本」をロイロノートで紹介する。 「絵本」の読み聞かせ(発表) オリジナル絵本作り 「オリジナルの絵本」の製作 ・ストーリーを考える。 ・展開・絵コンテ作り ・発表会 ・感想を交換し、振り返りを行う。 夏休みの課題(2学期にむけて)
二学期	なし	エプロンシアター 「オリジナル絵本」をもとに、「エプロンシアター」の発表を行う。 ・台本をロイロノートで作る。 ・エプロンシアター製作 ・エプロン作り ・フェルトでキャラクター作り ・発表練習 ・全体での発表会 2学期の振り返り ・2学期の振り返り 感想を交換し、振り返りを行う 冬休みの課題(3学期にむけて)
三学期	なし	お遊戯(ダンス)の作品作り 幼児が親しみやすい曲を選び、お遊戯(ダンス)をする。 ・グループわけ(4～5名) ・曲を選ぶ。 ・各個人パートの分担 ・各個人のお遊戯振り写しシートの作成 ・お面作り ・発表会 ・感想を交換し、振り返りを行う。 1年間の振り返り ※オンライン授業を行う時は幼児教育に関する課題を適宜取り入れる。

生活デザイン入門(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	七島, 川里
教科書	2024 生活学 Navi (実教出版) 家庭総合(実教出版)
対象生徒	選択 F 高校 2 年・3 年

1. 授業の目標
- 実習を通して持続可能な社会を目指す。
実習を通して、材料の選択、基礎的なミシン縫い・手縫いなどの縫製技術を身につけ、日常使用するものを自由に作成する。
生活を豊かにするための知識や技術を習得する。
2. 副教材・参考書
- 副教材：「2024 生活学 Navi 資料+成分表」実教出版
実習：「基礎縫い お弁当袋」「トートバッグ」
「フリースでつくるプルオーバー&ジャケット」
3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- 1 学期：「生活を振り返り課題を発見し、解決方法を考える」課題の提出
「手縫い教材」「基礎縫い お弁当袋」の提出
2 学期：「トートバッグ」「製作の記録(感想と自己評価)」の提出
3 学期：「フリースでつくるプルオーバー&ジャケット」の提出
「実習の記録(感想と自己評価、フリースについて)」の提出
※駒沢女子大学住生活デザイン学類 出前授業 6 月実施予定
4. 宿題・課題・再試について
- 1 学期：「生活を振り返り課題を発見し、解決方法を考える」課題
「お弁当袋」作品
2 学期：「トートバッグ」作品、「製作の記録(感想と自己評価)」
3 学期：「フリースでつくるプルオーバー&ジャケット」作品
「製作の記録(感想と自己評価、フリースについて)」
5. 評価の基準について
- ・下記により評価する。
- 1 学期：課題 40%，作品 60%
2 学期：製作の記録 30%，作品 70%
3 学期：製作の記録 20%，作品 80%

・以下の表のように観点別評価をつける。

	作品(基礎縫い)	課題・製作の記録	作品
A	製作に必要な手縫いの技術や用具の使用方法を身につけており、実習に適切に活かすことができる。	現在の生活を取り巻く状況から、自分の生活を振り返りながら課題を具体的にあげることができる。	自分で作り出す作品のもののづくりの楽しさを体感しながら、製作活動に意欲的に取り組んでいる。
B	製作に必要な手縫いの技術や用具の使用方法がわかり、実習に活かすことができる。	現在の生活を取り巻く状況から、自分の生活を振り返ることで課題をイメージすることができる。	作品を完成させる達成感を味わいながら、製作活動に取り組んでいる。
C	製作に必要な手縫いの技術や用具の使用方法を概ね理解することができる。	現在の生活を取り巻く状況から、自分の生活を振り返ることができる。	作品の完成に向けて、製作活動に取り組んでいる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は、授業進捗状況により変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	なし	生活学 Navi 持続可能な社会について考察する。 「もったいない」と3つのRについて考える。 マイバッグと環境問題について考える。 「死蔵被服」について考える。 持続可能な社会に向けて、何ができるかを考える。 手縫い 基礎的な縫製技術(手縫い/なみ縫い・半返し縫い・本返し縫い・まつり縫い・千鳥がけ)を身につけ簡単に製作できる袋を作る。 駒沢女子大学住生活デザイン学類 出前授業
二学期	なし	ミシン縫い トートバッグ ミシン、備品の扱い方を習得する。 バッグに適した布を選び、必要な材料を購入することができる。 アレンジを施したバッグを自由に製作することができる。 作品の自己評価・感想をまとめる。
三学期	なし	ミシン縫い ブルオーバー&ジャケット 型紙を用いて被服製作に取り組む。 フリース素材の縫製技術を身につける。 衣服の構成について理解する。 作品の自己評価・感想をまとめる。 フリースの特徴について調べる。

コ・メディカル入門(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	樋口 二見 丸山
教科書	
対象生徒	高校 2・3 年

1. 授業の目標
- 看護・医療・福祉・心理系など将来の職業を目指す生徒を対象とする。
2. 副教材・参考書
- 学期ごとのプリント教材
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等
- ・コ・メディカルの職種に興味を持ち，積極的に取り組むことが望ましい。

・作品を作成する際は，自分の個性を十分にさせるものにする。

・実習は十分に行う。

・発表は事前練習をしっかりと行う。
4. 課題について
- ・単元ごとの課題はパフォーマンス評価の対象とするため，必ず提出期限を守る。
5. 評価の基準について
- ・発表・実技 30% 小テスト 40% 課題・作品 30% により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	発表・実技	小テスト	パフォーマンス(課題・作品等)
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他
- 特になし

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	授業内	コ・メディカルとは オリエンテーション インフォームドコンセント 興味のある職種を調べて発表する 医療福祉問題について 年齢社会の現状・高齢者を取り巻く医療とケア 認知症サポーター養成講座 外部講師
二学期	授業内	普通救命講習講座 座学・実技 疑似体験 車いす・松葉つえ・白杖・妊婦・手話 医療福祉問題について がんについて 外部講師 発表
三学期	授業内	健康寿命を考える 健康マスター検定 医療福祉問題について 臓器移植について 安楽死について

単位数	2 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標
- 各プロジェクトを進め、将来生きていく上で必要な力を身につける。「思考力や判断力，表現力」「さまざまな人々と協働して学ぶ態度」などの，新しい大学入試や社会で必要な力を養う。高校 2 年次は「深める・探究する」をテーマに，課題の設定や調査の方法，企業が抱える諸問題の解決に取り組む。
2. 副教材・参考書
- なし
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等
- ①グループワーク(協働型学習)が中心になるため，他の人の話をよく聞き，協力する姿勢を大切にする。
- ②自分の考えをまとめて発表する活動では，聞き手側に伝わるよう留意する。
- ③提出物は完成した状態で，期限内に必ず提出する。
4. 宿題・課題・再試について
- 各活動で課題が必ず出される。
5. 評価の基準について
- 発表及び提出課題で評価をつける。各学期は 5 段階で評価し，学年末には「総合的な探究の時間」としてライフデザインと統合し，A・B・C の 3 段階の評価をつける。
6. その他
- 授業計画は予定であり，変更することがある。

授業計画	
学期	授業内容(教材)
一学期	Academic Debate Project
二学期	My Favorite Project
三学期	Intern Work Project

ライフデザイン (2024 年度)

単位数	1 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校 2 年

1. 授業の目標
- 人生のターニングポイントで、自分の満足し得る選択肢を見出すことが出来る力＝「人生を切り拓く力」を身に付ける。5つの分野(コミュニケーションスキル・キャリアプラン・マネープラン・ウィメンズライフ・ジェンダー)の活動を行う。
2. 副教材・参考書
- 『アンガーマネジメント Vol.1』(一般社団法人アンガーマネジメントジャパン)
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等
- ①グループワーク(協働型学習)が，中心になるため，他の人の話をよく聞き，協力する姿勢を大切にする。
- ②自分の考えをまとめて発表する活動では，人に伝わるように留意する。
- ③提出物は完成した状態で，期限を守って必ず提出する。
4. 宿題・課題・再試について
- 各活動で課題が必ず出される。
5. 評価の基準について
- 発表及び提出課題で評価をつける。各学期は5段階で評価し，学年末には「総合的な探究の時間」として Komajo Quest と総合して A・B・C の3段階の評価をつける。
6. その他
- 授業計画は予定であり，変更することがある。

授業計画			
学期	試験	授業内容(教材)	
一学期	期末	マネープラン コミュニケーションスキル	コンビニスイーツを考えよう アンガーマネジメント Vol.2(前半)
二学期	期末	キャリアプラン コミュニケーションスキル ウィメンズライフ	世界の女性たち 社会人ワークショップ アンガーマネジメント Vol.1(後半) 助産師・産婦人科医講演会 デートDV講演会
三学期	学年末	キャリアプラン	生き方を考える講演会 自己PR